

今号は、やまびこだよりと研究所の防災訓練、第4回自己啓発講座について掲載しています。

教育研究所 防災訓練 ～もしにも備えてみんなでLet's 防災～

教育研究所では、12月に防災訓練として2つの取り組みを実施しました。どちらも、地震・火災等による災害を想定しながら、そのときの対応について体験を通して考えることを目的として行いました。

★その1 災害時を想定した野外体験

12月8日（金）に第一弾「災害時を想定した野外体験」を実施しました。近くのロクハ公園キャンプ場に出かけて、火起こし体験、野外調理、野外活動を行いました。災害が起こって、電気やガスが使えなくなった時に、野外でも火を起こして調理ができるということを体験できました。



★その2 災害時を想定した避難訓練・救急訓練

12月15日（金）に第二弾「災害時を想定した消防署員による訓練」を実施しました。まず、事務室の電子レンジから火災が発生したという想定で、所内にいる全員で避難訓練をしました。次に2F研修室で救命蘇生の流れを南消防署の方から教えていただきました。実際に人形を使いながら胸骨圧迫やAED装着の訓練を行いました。また、毛布と長い棒を使った担架づくりも実演していただきました。やまびこの子どもたちや所員からのたくさんの質問に対しても詳しく教えていただきました。今回は大変、学びの多い時間となりました。



やまびこだより その1

☆やまびこ展覧会☆

11月10日（金）～11月17日（金）まで、やまびこ展覧会を青地教室、上笠教室で開催しました。子どもたちが制作した作品や活動の様子がわかる多くの写真を展示したところ、多数の方が鑑賞に来てくださいました。お忙しい中、お越しいただき、ありがとうございました。



青地教室の様子（藤田雅也教育長が来所）



上笠教室の様子（子どもたちの作品の数々）

不登校の子どもたちの保護者の集い

今年度もやまびこでは、「不登校の子どもたちの保護者の集い」を実施しました。

やまびこに通う保護者さんを中心に、不登校の子どもたちをもつ保護者の皆さんがお互いに思いを語り合える場として企画しているものです。

第1回は、6月19日（月）に実施しました。最初に、草津市グレードアップ連絡会スーパーバイザーの古日山 守栄先生から学校との連携の仕方や進路についてのアドバイス等をいただき、その後、保護者の皆さん同士で交流する時間をもちました。

第2回は、11月21日（火）に実施しました。オープンスペース祐の風 代表の藤原 祐子先生から、教育機会確保法（不登校児童生徒等への支援についての法律）と全国各地の取り組みの紹介をしていただいた後、参加した保護者さん同士で話し合う時間を設定しました。

それぞれ悩みを抱える保護者の皆さんですが、普段は、なかなか自分たちの思いを話せずにいる方も多いようです。お互いに語り合えたことで、少し心が軽くなったという保護者さんもおられました。とても好評だったので、次年度も継続していきたいと思っています。



やまびこだより その2

12月20日（水）に、やまびこ青地教室、やまびこ上笠教室で、それぞれクリスマス会を実施しました。



☆クリスマス会～青地教室～☆

青地教室では、ピンゴゲームやイラスト以心伝心ゲームをした後、ミニピザ作りをしました。



☆クリスマス会～上笠教室～☆

上笠教室では、宝探しゲームやカップケーキ作りをしました。





第4回草津市教職員自己啓発講座 (教育相談)

不登校の子どもたちとその保護者の思いを考える



自己啓発講座

11月21日(火) オープンスペース祐の風 代表 藤原 祐子さん

「教育機会確保法」という法律を知っていますか？

先生方に
知っていて
ほしい

教育機会確保法 一人ひとりに合った学びの場を保証するための法律

2017年に施行された不登校児童生徒等への支援についての法律です。学校以外の場所で行う多様な学習活動の重要性について書かれたもので、不登校の子どもたちに対する支援や夜間中学における就学の機会の提供等を規定している法律です。

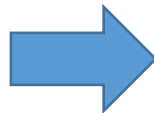
*御存知ない方は、ぜひネットでも検索してみてください。文部科学省からチラシも出ています。

不登校の子どもたちの気持ちの状態(段階)について知る

最初に「学校に行きたくない」と休んだときの子ども状態は…

エネルギーは0 ⇒ 不安と恐れしかない状態 であることがほとんど

- ・不安、心配、自信がない
- ・責められていると捉えてしまう
- ・行けるなら行きたい
- ・勉強が分からない
- ・みんなと感覚が違う 等々



この状態のときに登校を促すと…
登校できても無理をしている場合が多い。
「学校に来てしまえば、元気に過ごせる」は、
本人の過度な頑張りによるものなので長続きしないことが多い。

敏感な子ほど、大人の「～ねばならない」「～すべき」「～した方がいい」を察知するので、「休むことは悪い」と本人に思わせない、罪悪感を持たせない工夫を!また、本人が安心しないとエネルギーを溜めることはできないので、保護者と連携しながらエネルギーが溜められる一番適した方法を探る。

不登校の子をもつ保護者の思いは、その都度、確かめる

不登校の子をもつ保護者も、それぞれが思い悩み、心配と不安でいっぱい。そんな保護者が、望まれる対応もまた、人によって異なり、時間とともに変化していく。保護者は言いたいことが言えていないかもしれないと思いながら、どういう対応を望まれているのかをその都度、確かめていくことが大切。細かい対応(家庭訪問は誰に?欠席連絡はどうする?プリント類の配布は?給食費は?…など)について、基本は保護者の思いを聴いて優先しつつ、学校が出来る範囲で対応していく。

長いスパンを持って「try&error(トライ&エラー)」

不登校に同じケースは1つとしてなく、一人ひとりに理由や思いが複雑に絡んでいる。それをほぐしていくには、長いスパンを持って try&error を繰り返しながら対応していく必要がある。同じ言葉かけでも、受け手の状態で捉え方は大きく変わってしまう。だからこそ、子ども本人はどんな気持ちなのか、保護者はどんなことを望んでいるのか、今の状態を知るためにいろいろな方法で対応することが求められる。ただし、それらは担任や教育相談担当など誰かだけで抱え込むのは×。窓口となる人がいても、それを共有し、ともに考えていくチーム(組織)が大切。そのチーム(組織)で「try&error」を繰り返してほしい。

参加者の感想

- ・子どもや保護者が何を求めているのか、その情報をしっかりと掴み、連携していくことが大切だと学びました。子どもの状態を保護者と確かめ、見守る時期、支援する時期を判断していきたいです。